

# インタ



ビアリストックス(Bialystocks)というバンドがいる。覚えていただければ幸いだ。天賦の声、甫木元空と、ニューヨーク留学を機にジャズに傾倒したという、あえて「天才」と呼びたい菊池剛の二人組で、二〇一九年に結成。昨年、彼ら初の全国流通盤となったデビューアルバム「ビアリストックス」を発売した。音楽業界で本格派として一躍注目を集め、インディーズアルバムにもかかわらず、携帯電話はじめ複数のウェブCMに起用された。待望の五曲入りファーストEP「Tide Pool」も二十六日、発売された。デビューアルバムとともに必聴。ブレイク必至のグループだ。

## ■ ビアリストックス・甫木元空 ■

仙頭 武則

結成のきっかけは、甫木元空が監督した映画『はるね』の生演奏上映。あえてブルーレイ化や配信を拒み、各地で演奏とともに上映していく方法を現在も取っていて、ミュージカルとも違う、今までにない音楽映画だ。本人が作詞作曲した七曲と一体となった脚本が目をついた。映画のプレスリリースがわれわれの關係や経緯を明示しているのだから、抜粋して引用する。「二〇一四年、(映画監督の)青山真治は、教え子、甫木元空のシナリオと歌を盟友、仙頭武則に送った。これまた瞬時に甫木元空の才能を見抜いた仙頭は、共同プロデューサーとして青山と数年ぶりにタッグを組むこととなった。「百年でも人の口の端に上る映画が作り続けられなければならない」と

## 多彩な才能 注目の29歳

新作映画の編集の合間に、甫木元空と筆者(名古屋市内で)



「共通した考えから二人は、脚本段階から編集、音楽、宣伝配給に至るまで作品に寄り添う形をとった」。映画『はるね』は、新人監督の世界的登竜門ロッテルダム国際映画祭に一七年に招待され、私も同行した。現在も、甫木元空は私と青山監督の長旅の運転手として、はたまた、私の本籍地でもある高知県奥の四万十町に住む彼を訪ねて、と交流は続いている。高

知ではアート事業で総合ディレクターを務め、インスタレーション作品を発表、最近書籍化された。あの学生がなんと多才な二十九歳に成長したのか。

デビューCD発売翌日には拙宅で長時間、話し込んだ。「困難は乗り越えられる人のところに訪れる」と言われるが、彼は若くして語り尽くせぬ悲しみを背負っている。胸の奥にしまい込まれた思いは業となり、彼の映画や音楽に深く根ざし、底知れぬ奥行きと共に、若さを超越した強固にして普遍的な表現となった。

目下、甫木元空と二人で、四万十町で昨年十月に撮影した新作映画の編集の真っ最中だ。公開は年内を目指している。(名古屋学芸大学教授、映画プロデューサー)次回掲載は二月二十四日